

対 策 計 画 書

届出者	住所	大阪府貝塚市二色南町16番地	氏名	株式会社明治 関西工場長 古池 智彦
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大阪府内に4工場が操業し、主に菓子・乳製品の生産処理及び販売を行っている。 (関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場、大阪工場、関西支社)		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間		2018 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日 (3年間)	
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		50,272 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		53,643 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		48,764 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		52,014 t-CO ₂	
	選択	レ	3.0 %
			3.1 %

目標削減率に関する考え方

温室効果ガスの排出量は、製造物量に大きく影響することから、30～32年度の計画では生産重量を基にした原単位を設定する。温室効果ガス排出量の削減を、年間1%・目標年度で3%削減することを目標として設定し、取り組みを行っていくこととする。

温室効果ガス排出量削減の対策として、弊社の目標である前年度エネルギー使用量に対し2%削減を軸に、老朽化設備の能力診断及び、不稼働時の供給停止や設備の運用改善を実施し、固定的なノスの削減を進めていきたいと考える。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	-------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (当工場の生産重量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

生産工場は生産重量 (t) として統一しており、販売を行う関西支社については、原単位を算出不可能のため、電気使用量のみ合算している。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社で実施する省エネルギー目標を基に、毎月の原価検討会及び職場のミーティング等を活用し、省エネの進捗状況の確認、施策の検討を進める。また、半期毎に開催される技術検討会にて省エネ対策の情報共有を図り、省エネの推進体制を継続・維持していきます。

対 策 計 画 書

届出者	住所	東京都千代田区丸の内2-1-1	氏名	明治安田生命保険相互会社 代表執行役社長 根岸 秋男 印
特定事業者の主たる業種		67保険業（保険媒介代理業、保険サービス業を含む）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		生命保険の販売を業としており、販売拠点としての営業所の他に資産運用目的で賃貸ビルを保有しております。		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間		2018 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日 (3年間)	
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		11,324 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		12,568 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		11,211 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		12,443 t-CO ₂	
	選択	レ 目標削減率 (排出量ベース)	1.0 %
		目標削減率 (原単位ベース)	%
		目標削減率 (平準化補正ベース)	1.0 %

目標削減率に関する考え方

上記目標削減率の補足として、年1%(トータル削減率3%)を目標として掲げる。具体的には2020年度までにトータル339t-CO₂/3年の排出量削減を目指す。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t -CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	--------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ・経営層をはじめ、CSR推進部署、不動産運用・管理部署等で省エネに資する諸対策を展開
- ・諸対策として、設備更新等の局面にて、設備の受電ロスの解消等をめざすべく、高効率機器の検討・導入しているほか、自社・テナントへの省エネに対する啓蒙・促進活動を積極的に推進中
- ・なお、電力削減に向けた対策の一環として、全社的にBEMSを設置し、夏季・冬季を中心とした電力デマンド制御による効率的な電力削減を継続実施

対 策 計 画 書

届出者	住所	名古屋市東区葵2丁目12-8	氏名	名鉄運輸株式会社 取締役社長 内田 互
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		当社は、北は北海道から南は沖縄まで全国ネットを構成する「名鉄運輸グループ」の中核となっており、路線・区域・宅配・引越・流通倉庫・航空貨物など一貫輸送体制による総合物流事業を展開し、多様化するお客様の物流ニーズにお応えしています。当社の環境方針は、輸送サービスの提供という事業活動から生ずる環境への種々の影響を低減することが社会的責任の一つと認識し、「環境にやさしい名鉄運輸」の実現のために社員一人ひとりを含めた社内全組織の連携により、環境問題に積極的に取り組んでまいります。		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2018 年	4 月	1 日～	2021 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		7,651 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		7,711 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		7,422 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		7,480 t-CO ₂	
	選択	レ 目標削減率 (排出量ベース)	3.0 %
		目標削減率 (原単位ベース)	%
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3.0 %

目標削減率に関する考え方

年間1% (3年間で3%) の削減を目指す

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	-------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

車両の整備管理の徹底に取り組んでいます。

対 策 計 画 書

届出者	住所	大阪府柏原市円明町 8 8 8 - 1	氏名	株式会社 メイワボックス 代表取締役 増田 淳
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		軟包装材料製造販売		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2018 年	4 月	1 日	～ 2021 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量			6,268 t-CO ₂
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)			6,651 t-CO ₂
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)			6,086 t-CO ₂
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量 (平準化補正後))			6,458 t-CO ₂
	選択	目標削減率 (排出量ベース)	%
	レ	目標削減率 (原単位ベース)	3.0 %
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3.0 %

目標削減率に関する考え方

温室効果ガスの排出量を3年間で3%以上削減する。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	-------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率 (原単位ベース) を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (加工メーター)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境推進委員会を毎年実施し部署ごとの原単位を把握し省エネルギーを推進する。

対 策 計 画 書

届出者	住所	東京都中央区八重洲2-7-15	氏名	株式会社メディセオ 代表取締役 長福 恭弘
特定事業者の主たる業種		55 その他の卸売業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		医薬品、医薬部外品、試薬、医療機器、介護用品等に関する総合卸売業		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2018 年	4 月	1 日	～ 2021 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		4,090 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		4,449 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		3,967 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		4,316 t-CO ₂	
	選択	レ	目標削減率 (排出量ベース) 3.1 %
			目標削減率 (原単位ベース) %
			目標削減率 (平準化補正ベース) 3.0 %

目標削減率に関する考え方

当社における温室効果ガス排出源はオフィス活動及び自動車の運行によるものであるが、いずれも売上高等の指標に直接的に連動するものではないため、目標削減率の設定にあたり原単位は設定せず、排出量ベースで毎年1%削減する目標を設定した。業容拡大により物流量が増えており、車両数増加中。それに伴い、温室効果ガス総排出量増加は否めないものの、低燃費車導入・エコドライブ実施などで最大限抑制に努力をし、32年度までに3%削減を実現したいと考える

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	-------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

各事業所に対して、省エネルギー活動推進の呼びかけを実施する。

対 策 計 画 書

届出者	住所	東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング	氏名	メビウスパッケージング(株) 代表取締役 大岩三千雄
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		プラスチック製品の製造、販売など		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
2018 年	4 月	1 日	～ 2021 年 3 月 31 日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		8,246 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		9,121 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		8,000 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		8,848 t-CO ₂	
	選択	目標削減率 (排出量ベース)	%
	レ	目標削減率 (原単位ベース)	3.0 %
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3.0 %

目標削減率に関する考え方

大阪府が目標値と決めた削減率3%（原単位ベース）にて計画しました。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	t-CO ₂	吸収量による削減率	%
-------------	-------------------	-----------	---

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産重量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

工場長をリーダーとし、安全面はもちろんのこと環境面（温暖化対策）へも積極的な取り組みを目指します。毎月1回開催しているTMS（統合マネジメントシステム）委員会にて、各係の「エネルギー使用量」を報告し確認している。また、社有車（リース車）でのエコ安全ドライブの推進。急発進・急ブレーキ・速度超過など発生した場合、会社PCへ配信されるシステムとなっている。